

障害女性の困難——ヴェトナムハノイにおけるインタビュー調査から

立命館大学大学院 先端総合学術研究科 公共領域 権藤 眞由美

目的

- ① 障害女性への支援
- ② 障害女性の生きにくさ
- ③ 障害女性が抱えている困難 ⇒明らかにする

研究方法

2013年4月26日～7月17日 ヴェトナムハノイ市
 ・ハノイILセンターメンバー(ILセンター女性利用者6名★)及びDPハノイ女性メンバー8名へ半構造化インタビュー調査を実施

先行研究

日本の先行研究から →障害女性の問題の複雑さ(差別、貧困、性差別など)(DPI女性障害者ネットワークメンバーの活動報告書)
 ヴェトナム→日本と同様に、障害女性は、「貧困」「障害」「女性」と幾重にも重なる困難がある。
 ↓ ↓ ↓
 「それぞれの人が、障害の有無や性別、誰とどう暮らすかということにかかわらず、一定の安定を得て、尊厳が保障された状況で社会と関わりながら暮らす生活を展望するには何が必要なのか」(瀬山2010)

ヴェトナムにおける障害者の概況

- 障害者の総数:約670万人中、ハノイ市障害者数:約9万人
- 障害別:運動障害29.41%(197万670人)、精神障害16.82%(112万6000人)、視覚障害13.84%(92万7280人)、聴覚障害9.33%(62万5110人)、言語障害7.08%(47万4360人)、知的障害6.52%(43万6840人)、その他17%(113万9000人)
- 性別:女性58%、男性42%
- 障害者の現況:全体数の21%は労働が可能な人々であるが、その中で62%の人は働き収入を得ている。全体の障害者数670万人中で16歳以下の子どもは120万人、31%が重度障害児である。また、重度障害者は42.7%。
- 障害者居住地の割合:農村が75%、都会は25%
 都会の障害者25%の内、80%は家族の収入に依存し、農村では75%内の70%は家族の収入に依存している。また、医療面やその診断により様々な困難を抱えている障害者は58.34%である。
- 社会福祉のプログラム受給者数(重度障害者及び重病者):約50万人

障害女性への支援 ——DPハノイの活動

DP ハノイ:2006年1月に設立。職員9名のうち代表者含む5名が障害者。DPハノイメンバー登録者数:約6000人。「デンマークのNGOであるPTUやILO,DPI/AP、及びRIから援助を受けている」(堀場2013) ハノイ市内の23エリア、市外6エリア、自助団体20グループが所属しており、**リーダー養成、特に障害者の権利に関する意識啓発、政策立案や職業訓練、自営を営む障害者への資金貸付**を行なっている。DPハノイの中心事項の一つに、「**障害女性の生活の向上**」が目標とされている。障害女性が困難と感じている点は、**①安定した収入を得られる仕事につけない②専門職につくためのスキル習得が難しい③基本的な知識を(法律や政策)得る機会がない④家族・夫婦に関することを聞く「場」がない**、などである。



自宅内の階段

主な移動はバイク

家は上に高い

インタビュー調査

【恋愛】・・・★恋愛は、相手からのチャンスを感じるけど、相手に迷惑をかけたくなくてチャンスを感じないようにした。できるだけ独身でいようと思う。自分のことだか、大変なことも耐えられる。相手は、(障害がないパートナー)だと幸福をもっともらえと思う。
 【結婚】都市部では、結婚できる場合が多い。田舎は本当に少ない。都会の人の考え方は厳しい。田舎であれば地域とか、結婚をしていることをみんな知っている、干渉される。監視されているような感じ。社会の考え方はいい考えもあるし良くない考えもある。
 ・障害を持っている女性も幸福を要求する権利を持っている。家族を持つことは権利だと思っている。
 ・★結婚している人の性格によるが、自分の障害を認識して自分は頑張らなければならないと思っている。

【結婚に関する考え】・・・★前の彼氏の提案、要求は「今は、カップルとして、普通のカップルと同じ、でも結婚するとしたら私が子どもをつくれれば、結婚する、子どもをつくらなければ結婚しない」そのことを聞いて、私は何もできないし将来どうなるか自分もわからないけど、相手はそのような条件を言った。男は、いつも賢い女性が好きだけど、生活が安定している女性を求めている。

【家族との関係】・・・★私は自信を持っているから強い。それは、誇りを持っているということ。子どもも誇りを持っている。

【ヴェトナムの女性像】・・・ベトナムの女性は我慢強い。すごく困っても、また自分と同じような障害があっても、育児、毎日の仕事を真面目にやる人。

・・・家族のために犠牲にする人が多い。ですから、ベトナムの男性もそういう女性が好きなようです。

・・・男性は仕事をし、女性は家を守るという古い考え方が残っている。

【女性役割】・・・ベトナムの考え方は厳しい。女性の役割が多い。

【差別】・・・★近くの洋服屋さんに行って差別された。店に入って「これをください」と言っても「着れないよ」と言われ、となりの店で500万ドン(約25000円)の買い物をした。ちょっと、意地悪した。スーパーマーケットも...障害者は貧乏だと思ふ人が多い。

・・・認められないと思うところ→普通の人は障害者について、十分な生活ができたらいと思う人が多い。ほとんど、障害者は普通の人と比較されるのですから。障害者の価値は低く見られていると思う。また、自分が障害者であるということ、困らせる人と思われる事が多い。

・・・会社は、障害者を差別することがあります。障害者でない人は、できなかった部分を自分のせいにした。差別されることに対して会社には言ったし、工場の担当者に手紙を送ったこともあるが、解決してくれなかった。担当者は、「自分には関心がない。」と言った。

【自立】・・・★随分前から、そういう考えがあった。毎日、両親が身の回りのことをやってくれて。自分の役割がなくなっていく気がした。今までよりも自立してきたが、まだ両親に頼って生活しているので100%自分で何でも決められない。経済的にも自立して独立したいと思っている。

・・・★私は大学に入ってから自立できた。ほとんどベトナムの障害者は自立できる人が少ない。「自立」しなければならなかったのは、大学の試験を受けるのを決めてから。

【悩み】・・・★家族と一緒に出かけることができない。どこに行ってもいろいろな物を持って行かなければならないので面倒くさい。

・・・交通のこと、障害者はお金はないのにタクシーで移動しなければならない。バスは安いけど混んでいて乗れない。

・・・出産後は自分の身体も弱くなる。自分自身の健康に自信がない、夫の親家族の世話をすることができない。

・・・田舎に住む女性の日々の生活は厳しい。田舎の女性の権利は低い。

・・・独立して生活できる、料理、移動が自分でできるという生活がしたい。

・・・物価の上昇で収入面や生活面において心配している。

【仕事】・・・結婚しても、農業の仕事をしなければならない。

・・・自分の仕事は自営に限られる。ほとんどが農業でありコメ、野菜を作る。重度の人は、農業ではなくもっと簡単な仕事をする。

・・・ほとんどの人は仕事がない、収入がない。手工品を作る(洋裁、服を編む花をつくる)・・・仕事ができない人は家で家事をする。

結果

ヴェトナムではDPハノイが障害女性の生活に向上を目標とし数々の活動を展開している。インタビューの回答からは女性役割、結婚、仕事、物価上昇後の生活不安などが聞かれた。また、性別に関係なく、障害者が移動する手段が限られていることは、金銭面と同様に家族に頼らなければならない家族の存在はかかすことができない。

考察

現在、ヴェトナムでは、一部の障害者はILセンターの介助派遣を利用し生活している。介助者派遣を利用している障害女性は、炊事、洗濯、掃除などの負担が少ないが、利用できない障害女性は、自分の存在が家族の「負担」であると感じている人もおり、女性役割を強いられているようである。また、障害年金が十分でないため、安定した収入を得られる仕事をしたいという声はとくに強かった。ヴェトナムの都市部から離れるとタクシーもなく、主な移動手段がバイクである。それは、障害者が生活を営む上で大きな障壁であり、移動範囲が限られる。道路の整備や低床バスの整備、障害者年金の増額、介助費を公的資金から拠出する、差別への対応や啓発活動など、多くの課題があげられるが、障害女性に向けた取り組みは、より一層の意識啓発活動の推進が障害女性の権利意識を高め、共に暮らす障害を持たない社会の人々の意識改革につながるといえよう。

参考文献 ◆堀場浩平(2013)「開発途上国における障害者のエンパワーメント——ハノイ自立生活センターの事例分析」,日本福祉大学大学院国際社会開発研究科。
 ◆瀬山紀子(2010)「障害女性と貧困」『障害学研究6』,障害学会。